

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

『一人ひとりのいのちの輝きを大切に』を合言葉に、すべての子どもたちの自立と社会参加をめざし、学校・保護者・地域や関係機関との連携を図り、子どもたちの障がいや発達状況に応じた専門性の高い教育活動を行う学校をめざします。その実現のために、以下の4点を重点とした学校経営に取り組めます。

- 1. 児童生徒の一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた教育活動をすすめる学校
- 2. 支援教育に関する高い専門性に基づく教育をすすめる学校
- 3. 保護者や地域に信頼される開かれた学校
- 4. 児童生徒の生命を慈しみ人権を守る安心で安全な学校

2 中期的目標

1. 一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた教育活動の推進

キャッチフレーズ：「今日も来てよかった、と思える学校に」

- (1) 児童生徒一人ひとりのニーズを大切にし、個性や特性に応じた教育を通して、生きる力を伸ばし、自分らしく豊かに生活できる力を育てる。
○保護者向け学校教育自己診断における「学校へ行くのを楽しみにしている」に関する肯定的回答率については、令和9年度には95%を維持する。
(R4 91.0%, R5 94.6%, R6 95.4%)
- (2) 学部間の連携を深め、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた※キャリア教育等の充実を図る。
※キャリア教育：すべての児童生徒の願いに基づいて、ライフステージや発達段階に応じた課題や役割を果たすことで、意欲や生きる力を身につけ、社会参加と自立および豊かな生活をする力を育む
○教職員向け学校教育自己診断におけるキャリア教育に対する肯定的回答率については、令和9年度には90%以上を維持する。
(R4 76.1%, R5 85.3%, R6 92.2%)
- (3) 「個別の教育支援計画」の活用による教育活動の充実を図る。
○保護者向け学校教育自己診断における「個別の教育支援計画」に関する肯定的回答率については、令和9年度には90%以上を維持する。
(R4 84.8%, R5 88.5%, R6 90.8%)

2. 支援教育に関する高い専門性と授業力の向上

キャッチフレーズ：「子どもの可能性を広げる学びがいっぱい」

- (1) 新学習指導要領に対応した教育課程を実践する。
○シラバス作成に関する肯定的評価（教員） (R4 87.3%, R5 82.9%, R6 94.6%)
- (2) 様々な児童生徒のニーズに対応できる専門性や授業力の向上を図る。
○授業がわかりやすく楽しいと感じている肯定的評価（保護者） (R4 86.9%, R5 88.5%, R6 90.8%)
- (3) 効率的・機能的な運営組織や業務の見直しを図りながら、教員の働き方改革及び業務の負担軽減を推進する。
○職場ストレスチェック総合健康リスク値を令和9年度に向け府立学校全体値（98）以下を維持する。(R4 102, R5 96, R6 96)

3. 保護者や地域に信頼される開かれた学校づくり

キャッチフレーズ：「みんなで高めよう、支援のチカラ」

- (1) 学校情報の積極的な発信に努める。特に学校ホームページの内容のスピーディーな更新と地域への広報活動の充実をめざす。
○学校ホームページに関する肯定的評価（保護者） (R4 91.7%, R5 90.5%, R6 95.4%)
- (2) 地域における支援教育の専門性向上のため、リーディングスタッフを中心としたセンター的機能の充実を進める。
○地域支援に対する肯定的評価（教員） (R4 94.0%, R5 92.2%, R6 94.6%)
- (3) 校内支援の充実のために校内体制の整備と地域連携の充実を図る。
- (4) 進路に関する情報を積極的に保護者に提供し、体験実習等を通じて生徒の適性に応じた進路の実現に努める。

4. 安全で安心な学校づくり

キャッチフレーズ：「こころもからだも安全、安心に」

- (1) 人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、様々な人権問題の解決をめざした教育の推進に努める。
○人権活動、人権意識に関する肯定的評価（教員） (R4 97.0%, R5 98.4%, R6 98.4%)
- (2) 大規模災害や防犯等への対応のために、マニュアル等の定期的な検証、及び安全対策・安全教育を推進する。
○防災対策に関する肯定的評価（保護者） (R4 95.9%, R5 95.3%, R6 94.1%)
○防災対策に関する肯定的評価（教員） (R4 92.5%, R5 97.7%, R6 95.3%)
- (3) 医療的ケアを必要とする児童生徒の安全で安心な教育環境の確保のために、校内体制の充実と関係機関等との連携を強化する。
○医療的ケアに関する肯定的評価（保護者） (R4 95.5%, R5 95.3%, R6 95.9%)
○医療的ケアに関する肯定的評価（教員） (R4 94.0%, R5 95.3%, R6 96.1%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和7年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
【保護者による自己診断について】 ○回答は、フォーム作成ツールを用いて QR コードからの回答と紙面での回答の 2 者択一とした。紙面で希望した家庭は6家庭。それ以外はフォーム作成ツールでの回答であった。学習支援連絡網も利用し保護者向けへ提出協力のアナウンスを行った効果があり、回答率は 82.4%で昨年度より上昇した。 ○「肯定的回答」が90%以上の項目が 10 項目(令和6年度 13 項目)、80%以上は4項目(令和6年度1項目)であった。 ○昨年度よりも「肯定的回答」90%以上の項目や全体的にも肯定的回答が若干、低下している理由は、今年度は質問内容をより具体的にしたため、アンケートの精度があがったのではないかと考えられる。また、毎年同じ項目に増減があるため、検討が必要である。 ○学校への期待は大きく、来年度も保護者と協力しながら「児童生徒一人ひとりのいのちの輝きを大切に」を合言葉に達成感や自己有用感を得られるような学校づくりを進めていく。 ・ 「学校は、子どもが困っていること(いじめ等)があればすぐに相談できる等の体制が整っている。」は肯定的回答が 89.6%(令和6年度 92.8%)、否定的回答が 1.3%(令和6年度 2.6%)と低下し、わからない回答が 9.1%(令和6年度 4.6%)と上昇した。理由は「困ったことが無いので対応されているのかわからない」という内容だった。4月に体制を含めた文書「いじめ対策委員会について」を配付しているが、年間3回実施している「いじめ等アンケート」を配付する時にも再度学習支援連絡網で周知するなどを行う必要がある。 ・ 「学校は子どもの障がいについてよく理解している。」について肯定的回答が 98.1%(令和6年度 95.4%)と上昇した。日頃の取り組みが、保護者からの評価・信頼を得られているのではないかと考えられる。 ・ 「個別的教育支援計画は、学校・保護者・地域・福祉・医療などとの情報共有や連絡ツールとして必要時に使用されている。」では、肯定的回答が 86.4%(令和6年度 90.8%)と低下し、否定的回答が 7.8%(令和6年度 2.6%)と上昇している。来年度、大阪府下で新システムへ移行され、本校でも担当分掌が変わるため、使用方法について確認と検討が必要となる。 ・ 「学校は子どものライフステージや発達段階に応じて、自分らしい生き方を実現していくための教育(キャリア教育)によく取り組んでいる。」について肯定的回答が 87.0%(令和6年度 90.8%)低下した。キャリア教育を周知するために「日々の実践」や「どこでもカフェ」や「共同学習」などを学校だよりやホームページで発信をしていく必要がある。 【教職員による自己診断について】 ○今年度もフォーム作成ツールを利用したアンケート形式とした。回収率は 99%(令和6年度 97%)と連絡掲示板で周知したことや、未提出者には提出の依頼をした。 ○「肯定的回答」が90%以上の項目が 16 項目(令和6年度 17 項目)、80%以上は3項目(令和6年度2項目)であった。 ○「肯定的回答」が 80%台の項目は昨年度とほぼ同様であった。 ・ 「学校長は、自らの教育理念や経営計画についての考えを明らかにし、リーダーシップを発揮している。」について肯定的回答が 81.4%(令和6年度 90.7%)と低下した。学校長の具体的な方針、方策を浸透させるために、職員会議などで情報発信することが必要となる。 ・ 「学校は、授業力や専門性の向上のための校内研修や公開授業を実施し、研修体制を整備している。」について肯定的回答が 86.5%(令和6年度 89.9%)と低下した。全校での研修内容、方法についても検討をする必要がある。また、今年度、領域研修のあり方や実施内容、方法を見直し、来年度より実施する。 ・ 「学校は、地域支援(地域の小中学校等への訪問・来校相談および研修講師等)や家庭支援(校内ケース会議や諸機関との連携会議等による家族支援の充実)の充実に努めている。」について肯定的回答が 98.5%(令和6年度 94.6%)で上昇し、否定的回答が0%(令和6年度 4.7%)であった。朝の連絡掲示板などで、出前授業や研修会で誰が講師を行うかなど具体的に教職員に情報を発信したため、肯定的回答が増えたと考えられる。来年度も実施していく。	＜第1回＞令和7年7月 17 日(金) ○学校概要(各学部)について ・ 今年度も各学部医療的ケアを必要とする児童生徒が入学し、障がいの多様化も進んでいる。 ・ 高等部卒業後、就労移行や職業能力開発校へ行く生徒も増えている。また、生活介護では複数の事業所を利用する家庭も多い。 ○今年度の学校経営計画について ・ 今は重度な児童生徒も在籍をしている箕面支援学校だが、一人ひとりがスポットライトを浴びているのは嬉しい限りである。 ・ 個人情報の観点で保護者へ「児童生徒の写真を SNS などにアップしないでください」と学校からは伝えるが、最近の報道を受けて、教職員側も指摘される時代となっているので、気を付けないといけないことでもある。 ・ 「伝統」がしっかりと受け継がれている学校である。しかし、これは当たり前ではなく、継承する難しさは他校から相談を受けることもある。箕面支援学校の先生方の努力もあり、時代の変化にも対応されていると実感した。 ・ 「楽しく」は大切であるが、学校は「学び」についても考えていかなければならない。子どもは120%頑張ったことでできることで達成感が得られる。80%でできたことは子どもにとって心から楽しいと思っているのか。シンプルな支援や様々な支援を減らしていく大切さも考えてもらいたい。 ＜第2回＞令和7年 11 月 21 日(金) ○学校経営計画の進捗状況について ・ 学校より各項目についての進捗状況を報告 ○各学部の進捗についての意見、感想 ・ 高等部について、新しく選挙に取り組むということで素晴らしいと感じた。実践に繋がっていく教育はすごく大事だと思うので、結果についてもぜひ教えてほしい。 ・ 中学部について、教科横断的な取り組みをしているのであれば、今後は、自立活動で育てたい力「生き抜く力」が各教科の学習にどう繋がっているのかを見られると、教育活動としては面白いと思った。 ・ 小学部について、学校の入口として保護者の期待と学校のできる限界とのすり合わせは大事になると思う。 ・ 「できない」と決めつけず、小さな挑戦を重ねることによって子どもの成長が見えてくると改めて感じた。 ○令和 8 年度使用教科用図書について ・ 知的障がいのある肢体不自由の児童生徒に知的の教育課程を当てはめているのは違うと思う。ほし本の内容にもよるが絵本の方がいい場合もあるので、また考えていただければと思う。 ○校内見学 ＜第3回＞令和8年1月 23 日(金) ○令和7年度学校教育自己診断結果報告 ・ 肯定的回答が安定している。数値が下方になるのは、保護者、教職員にどれだけ情報が届けられているのかによると思われる。 ○令和7年度学校評価(案)について ・ 各学部より計画に関する今年度の取り組みについて、あわせて報告 小学部: ケース会議を多く開催し、児童をとりまく関係者間での情報共有が進んだ。 中学部: 医療的ケアの必要な生徒に関する教員体制づくりが進んだ。 高等部: SNSトラブルへの対応が今後の課題である。 ・ 評価案について承認 ○令和8年度学校経営計画(案)について ・ 今後、評価に応じた内容理解の検証が必要になると思われる。 ・ 計画案について承認 ○実施要項改定について ・ 改定について承認

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 教育的ニーズを踏まえた 教育活動の推進	(1)教育活動全体を通じた、 ウェルビーイングの向上	(1) 各学部において、学部目標のもと、「健康な体と豊かな心」、「人と関わる力」、「確かな学力」の観点に沿って一貫した教育活動を推進する キャッチフレーズ:「今日も来てよかった、と思える学校に」	(1) 学校が楽しいと感じる肯定的評価(保護者)を 95%以上維持[96.7%]	(1) 学部目標のもとに各学部にて教育活動を実践している。学校が楽しいと感じる肯定的評価(保護者)95.5%(○)
	(2)キャリア教育の推進	(2) キャリア教育コーディネーターは、キャリア教育全体計画を推進する キャッチフレーズ:「つなげる、つながる、夢や希望いつぱいの未来へ」 ア キャリア教育理解のための取組みの充実 イ 教育課程と連動させ、4観点(人間関係形成能力・情報活用能力・将来設計能力・意思決定能力)を組み込んだ授業シート(キラキラシート)の活用の推進 ウ 学びの連続性の構築のため、学部を超えての共同学習の推進	(2) ア キャリア教育コーディネーターによる研修を年1回実施 イ 共同学習や道徳の授業の際にキラキラシートを活用し、すべての学部において「どこでもカフェ」を年1回以上実施 ウ 共同学習の開催(年3回) キャリア教育に関する肯定的評価(保護者)を 92%以上維持[92.1%] キャリア教育に関する肯定的評価(教員)を 92%以上維持[92.2%]	(2) ア 職員会議(4月)において、「キャリア教育の取り組み」についてコーディネーターより周知するとともに、キャリア教育研修(7月)を実施(○) イ 共同学習、道徳の授業の際にキラキラシートを活用。どこでもカフェを各学部において実施(小学部:3学期参観週間、中学部:6月参観週間、中学部2年:9/16 みのおライフプラザ、高等部:7/22 納涼大会、12 月参観週間)(○) ウ 共同学習を年3回実施。(○) キャリア教育に関する肯定的評価(保護者)87.0%(△)(教員)91.1% (△)
	(3)個別の教育支援計画の 活用の充実	(3) 個別の教育支援計画を活用した教育活動を推進する キャッチフレーズ:「ニーズに寄り添い、広げよう、支援のWA(^O^)/」 ア 一人ひとりの実態を適切に把握し、保護者ならびに地域・福祉・医療等の関係機関との連携の充実	(3) ア 個別の教育支援計画を活用した実践 個別の教育支援計画に関する肯定的評価(保護者) 92%以上維持[92.1%]	(3) ア 個別の教育支援計画に関する肯定的評価(保護者)86.4%(△)
2 専門性と授業力の向上	(1)新学習指導要領に準拠した教育課程の編成に基づく 授業実践への取組み	(1) 新学習指導要領に基づいた教育課程を編成した授業実践をする キャッチフレーズ:「学びの保障～その授業、育てたい力は何ですか？」 ア 新しい校務支援システムの導入を踏まえ、シラバスに基づく授業実践を進める	(1) ア シラバスにもとづいた授業計画に関する肯定的評価(教員)を 94%以上維持[94.6%]	(1) ア 7月 25 日に外部講師を招き、支援学校における教育課程編成の問題や、シラバスに関する研修会を開催。シラバスにもとづいた授業計画に関する肯定的評価(教員)96.3%(○)
	(2)多様化する児童生徒への 支援における教員の専門 性や授業力の向上	(2) 教員の専門性や授業力の向上のための取組みを推進する キャッチフレーズ:「支援のプロ目指そうや!」 ア 研究テーマに即した校内研修や様々なニーズに対応できる専門性向上研修の設定 イ ICT を活用した授業をはじめ、特色ある肢体不自由教育の実践や 取り組み内容を学校ホームページで発信 ウ 自立活動に関する専門性の向上を図るとともに、自立活動機器の環境整備に努める エ スヌーズレン(みのバックを含む)を活用した授業の充実と効果の発信	(2) ア ICT をはじめ支援教育の専門性につながる校内研修5回以上の実施 イ ICT を活用した授業や特色ある取り組み内容を、年間 16 回以上発信[16 回] ウ 自立活動に関する肯定的評価(教員)92%以上を維持[92.2%] エ 学校ホームページに、「スヌーズレン紹介コーナー」を設置	(2) ア 研修としては実施しなかったが、定期的に ICT 機器を活用した教材のデモンストレーションを小学部ホール等でおこなった(△) イ 授業の実践と取り組み内容を、ICT にかかる内容を含め、学校ホームページにて年間10回発信(△) ウ 自立活動に関する肯定的評価(教員) 92.6%(○) エ 学校ホームページ改変の予定があり、作業が終了次第設置予定(△)
	(3)教員の働き方改革や業務 軽減を進めながら効率的・ 機能的な運営組織の構築	(3)組織運営の再構築をめざす キャッチフレーズ:「アフターファイブは自分磨きに」 ア 教員の活力向上と業務軽減を図りながら充実した教育活動を実現するための方策を検討	(3) ア 業務軽減をめざした校務の整理と役割分担の見直し 組織運営に対する肯定的評価(教員)95%以上維持[95.3%] ストレスチェックの総合健康リスクの値 100 以下を維持[96]	(3) ア 欠席連絡や感染情報のデジタル化により業務改善ならびに情報共有が更に進んだ。(○) 組織運営に対する肯定的評価(教員) 97.8%(◎) 職場ストレスチェック総合健康リスク 90(◎)

府立箕面支援学校

3 開かれた学校づくり	(1)学校情報の積極的な発信	(1) 情報発信の充実をめざす キャッチフレーズ:「発信力で、かがやけ学校！」 ア 「学校だより」「ブログ」等の積極的な発信 イ 保護者への文書配布をデジタル化し、欠席連絡やアンケート等の効率化(デジタル配信数 R5 131 回 R 6 172 回)	(1) ア ブログ等の更新回数が 130 回以上 学校ホームページに関する肯定的評価(保護者)95%以上維持[96.7%] (教員)95%以上維持[96.9%] イ フォーム作成ツールを活用した、各種連絡やアンケート等を年 180 回以上発信	(1) ア ブログ更新回数 118 回(△) ホームページに関する肯定的評価(保護者)93.5% (教員)99.3%(○) イ 各種行事案内、地域情報、PTA 連絡、感染者情報等におけるデジタル配信 293 回(○)
	(2)地域における支援教育の専門性向上のためのセンター的機能の充実	(2) 関係分掌等は支援教育のセンター的機能の充実のための取組みを推進する キャッチフレーズ:「地域に広がる支援の力」 ア 「新しい仕組み」を導入して、地域学校園の訪問相談や支援に関する相談を実施 イ 地域小中学校等での校内研修講師の派遣(R5 23 名 R6 25 名) ウ 近隣の市町(箕面市、豊中市、池田市、吹田市等)が開催する諸会議(支援連携協議会、要保護児童対策地域協議会等)への積極的な参加	(2) ア 市町 LT(リーディングチーム)と支援学校 LS(リーディングスタッフ)が連携した同行訪問相談ならびに事例検討会等を、10 件以上実施 イ 外部研修への派遣のべ 25 名以上[25 名] 地域小中学校等のコーディネーター対象の研修実施を進め、チーム力を増強 ウ 地域連携にかかる諸会議に年間 20 回以上出席する。 地域支援に対する肯定的評価(教員)95%以上[94.6%]	(2) ア 豊能ブロックとして実施 13 件、箕面支援として実施5件 計 18 件(○) イ 外部研修への派遣のべ 25 名派遣(内訳:箕面市3名、池田市 14 名、豊中市 8名)(○) ウ 豊能ブロック3市2町と吹田市を合わせて、のべ 17 回出席(△) 地域支援に対する肯定的評価(教員)98.5%(○)
4 安心して安全な学校づくり	(3)校内支援の充実	(3) 校内支援の充実のための取組みを進める キャッチフレーズ:「つながろう、みんなで」 ア 相談専任者(校内支援担当 L・S)は、校内支援担当首席と連携しての地域関係機関との協働支援を推進 イ 心理士等の専門職の活用 ウ 日頃から教職員が本校の教育課題を共有し、話し合える風土、場づくりに努める	(3) ア 地域関係機関と協働し、保護者・事業所等からのニーズに応じたケース会の実施 イ 心理士等、専門職の活用による校内支援を 12 回以上実施[12 回] ウ 教育活動について日常的に話し合っていることについての否定的回答(教員)1.0%以下[1.6%]	(3) ア 保護者、事業所等からの相談に体制を整えて逐一実施できている(○) イ 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士及び臨床心理士の活用年 12 回(○) ウ 教育課題を日常的に話し合っていることについての否定的評価(教員)2.2%(△)
	(4)進路指導の充実	(4) 進路情報の発信と生徒の適性に応じた実習の実施 キャッチフレーズ:「聞いて、見て、やってみよう！ベストマッチング!!」 ア 他の支援学校と連携した「日中活動事業所 相談・情報交換会」の開催と、他市で開催される同事業への積極的参加 イ 保護者を対象に、計画的な進路説明会、進路懇談会の実施 ウ 生徒の適性に応じた体験実習の実施	(4) ア 豊中支援学校と連携し、進路にかかる「日中活動事業所 相談・情報交換会」を5月に1 回開催 10 月に開催される、吹田市・摂津市の「日中活動事業所 相談・情報交換会」の案内と参加 イ 高等部1年生段階で、9月に課程別(普通・生活)の進路説明会、2年生段階で年2回の進路懇談会、3年生段階で5月に市町別進路懇談会を実施 ウ 高等部2年生段階で、希望による体験実習を実施	(4) ア 5/30 に豊中支援学校と連携し、「日中活動事業所相談・情報交換会」を開催(○) 10 月に吹田市・摂津市の「日中活動事業所相談・情報交換会」に保護者が参加した。(○) イ 9/8 に高等部1年生普通課程保護者を対象に、9/9 に高等部1年生生活課程保護者を対象に進路説明会を実施。5/15,16 に高3対象市町別懇談会実施(○) ウ 高等部2年生の体験実習を 21 回実施予定。(○)
	(1)人権教育の総合的な推進	(1) 人権啓発活動・教育の推進を継続する キャッチフレーズ:「真剣に人権／まきましよう、人権の種」 ア 児童生徒による人権啓発活動の継続 イ 研修および人権教育の実施 ウ 地域の小中学校への人権啓発活動(出前授業)の実施	(1) ア 児童生徒会の主体的な企画・運営による行事(人権週間、人権タペストリイ、始業式・文化祭等での司会・進行、リクエスト音楽等)を年間 10 回以上実施 イ いじめ対策についての周知 人権に関する研修を2回実施する[2回]とともに、「いじめ対策委員会」を学期に1回開催 ウ 箕面市内の小中学校を中心として「人権に関する授業」(出前授業)を実施 11 校以上維持[11 校] 人権尊重に関する肯定的評価(保護者)を95%以上で維持[96.0%]	(1) ア 児童生徒会による学校行事(始業式、文化祭等)の司会進行をはじめ、昼休みのリクエスト音楽の取り組みや人権週間・人権タペストリイの企画・運営実施 10 回(○) イ 悉皆研修(障がいの重い子どもたち-どう理解するか、介助を通して考える子どもの人権)を実施(○) いじめ対策委員会を学期に1回開催(○) ウ 出前授業を9校において実施(△)
	(2)大規模災害、防犯にかかる具体的対応策の強化・推進	(2) 大規模災害及び防犯への対応のための安全対策・安全教育を充実する キャッチフレーズ:「備えよう、命を守り切る、攻めの安全対策」 ア 実践的な防災訓練の実施と検証 イ 福祉避難所の指定に係る関係機関との連携強化 ウ 防犯への意識を高めるための安全対策を実施	(2) ア 避難訓練と引き渡し訓練を組み合わせた集中的な取り組みを年1回実施し、防災給食、簡易トイレ、非常用電源等、現実的な課題を想定した内容とする。 イ 本校を「障がいのある子供のための福祉避難所」とすることに向け、箕面市役所や防災アドバイザー等との相談を進める。 ウ 校内への不審者侵入を想定した「防犯シミュレーション」を年1回実施 防災対策に対する肯定的評価(保護者・教員)を 95%以上で維持[95.3%・95.4%]	(2) ア 5/29 に引き渡し訓練を組み合わせた、複合避難訓練を実施。実際の災害を想定した訓練となった。(○) イ 1月に箕面市役所と、3月に防災アドバイザーとの相談を実施(○) ウ 4/4 に教職員による防犯訓練を実施(○) 防災対策に対する肯定的評価(保護者)95.5% (教員)97.8% (◎)

府立箕面支援学校

	(3)医療的ケアを必要とする児童生徒の安全確保の推進	(3) 高度な医療を必要とする児童生徒を含め、医療的ケアを必要とする児童生徒の安全な医療的ケアの実施を推進する キャッチフレーズ:「教員と看護師のスペシャルハイブリッドシステム」 ア 看護師のスキルアップを図る イ トランシーバー等を活用した、教員、養護教諭、看護師の連携強化 ウ 医療・福祉等関係機関との相互連携体制強化	(3) ア 巡回相談医の活用(年9回)や看護師研修会への参加促進 イ 看護師を中心とした円滑な連絡方法の確立と打ち合わせ会の充実(保健室とは毎日・医療的ケア部とは月1回以上) ウ 医療・福祉等関係機関を対象とした学校見学会を開催し、医師に教育活動の様子を見ていただく機会を設定する 医療的ケアに対する肯定的評価(保護者・教員)を 95%以上で維持[95.9%・96.1%]	(3) ア 各巡回時に有効な相談をすることができた。本校主催も含め複数の研修に参加(○) イ 保健室(毎日)、医ケア部(月1回以上)との連絡がスムーズに行えた(○) ウ 今年度は、見学会を4回実施。本校児童生徒の主治医も複数名来校された(○) 医療的ケアに対する肯定的評価(保護者) 97.3% (教員)97.1%(◎)
--	-----------------------------------	--	---	---